

レディー Life

女性の就職 今こそチャンス

能力により 評価される

萩原 景気がいいとはいえない今こそ、女性が企業に就職するチャンス。企業は職場の花を雇う余裕がなく、会社に利益をもたらす「人材」を求めているから性別、年齢、学歴よりも、能力が評価される。

好きなこと 考え続ける

萩原 私は自分で会社をおこして、今はIT関連のコンサルティングやキャリアカウンセラーをしています。転職はコンピュター関連会社を病気のために辞めたとき、死ぬかもしれないと言われた大病から治った後、今日できることが明日できるか分からないと考えるようになって、中学生のころから気になっていた「経営」という言葉を実行に移しました。独立一年後には自社ビルを建てました。

小林 私は中学生のころから公務員になりたかった。国連主導の平和外交が華やかな時代で国連への就職を目指しましたが、高校時代に英語が不得手であることを自覚しました。政策をつくることへ目標を定め、法学部へ進学し、労働省(現・厚生労働省)に就職しました。

広瀬 私がカウンセラーと出会ったのは偶然です。本が好きだったから図書館情報学科に進み、司書教諭になりました。その時の同僚の先生に誘われて行ったカウンセラーのワークショップで、その出会いがきっかけです。仕事をしながらカウンセラーの勉強をし、結婚で金沢に来てからも折を見て必死に勉強を続けてきました。機会をつくって切れないよう、勉強を続けてきました。しかし、子育ての十五年間は長いようで短い。生きてきたことはそれだけで大きな財産です。親や友人など自分を支えてくれる人的資源を大切に持っています。ですから正社員で働いても子育てする道や自分のやりたいことを考える機会があります。

小林 就職するときに一生の職業を決めなくてもいいけれど、自分は何が好きか、ずっと考え続けることは大事ですよ。それもフリーターを長年続けるよりは、正社員として働きながら考えたほうがいい。フリーターの生涯賃金を正社員の四分の一ですから。

まず正社員から検討を

女子学生の就職には「氷河期」という言葉が定着し、男子学生以上に厳しい状況が続いています。ただし、見方を変えれば、今こそが働きたい女性にとってはチャンスといえます。カウンセ

リングを通し学生に接する臨床心理士やIT関連の会社経営者、行政の第一線で活躍する3人に、「氷河期」を乗り切る心構えや就職の考え方を話し合ってもらいました。

女性の目

職場の花より「人財」

出席者

広瀬 黎子さん
臨床心理士

萩原 扶未子さん
G&S社長

小林 洋子さん
小松市助役



ひろせ・れい 北陸先端科学技術大学院大学センター。金沢市内のクリニックでもカウンセラーとして働く。司書教諭を経て結婚で金沢へ、金沢市在住。62歳。



はぎわら・ふみこ 1986年、G&Sを設立。南山大学院博士課程で「組織内エンゲージメント」を研究。シンテ産業カウンセラー。金沢市在住。43歳。



小林 洋子 25年前、慶応大学で勤務。現在は小松市助役。小松市在住。38歳。

背伸びせず 肩肘張らず

小林 平成元年に就職したとき、二十歳ぐらいの年上の女性の先輩から女性は男性の三倍働かなければ認められないと言われ、それじゃ過労死してしまふ。一五倍じゃ駄目ですかと聞き返したことがありました(笑)。職場に女性が増えたと今は、そこまで女性を意識するともありません。

身近な支援者つくる

萩原 会社をおこした当時、は名刺交換するだけで「主人の(ほん)作らんが」と敬称されました。夕方電話すると夜の街への同伴出勤の誘いと勘違いされて、つないでもうえないこともありました。昔の笑い話です。だから私は経営者が集まる会などに入って、あぐまでも経営者同士の付き合いであることを分かってもらえるように努力してきました。認めてもらえるよう背伸びして肩肘張っていましたが、今の若手女性経営

働き方は自分で選ぶ

広瀬 二十五年前、慶応大学で勤務したとき、女性社員は男性社員の仕事のサポート役に徹していたことに驚きました。そのころは社会状況は大きく変わりました。変わらないうちは、仕事は人生の一部であり、一部以上ではないといふこと。時間をかけてもいいからやりたいことを見つけて、続けることが大事ね。

地域特性考え戦略を

萩原 仕事は自分を試せる場、失敗は成功のもと。一度失敗すればそこから学べるのですから。女性の就職先は一見少ないようですが、妻子を養わなくてはという強迫観念がある男性よりも働き方に幅があると言えるでしょう。